

国語科（言語文化）学習指導案

1 履修単位数	2 単位
2 実施日時	令和6年10月31日(木) 第6時限
3 学級	1○HR(○○名)
4 使用教科書	『高等学校 言語文化』(数研出版)
5 単元(題材)名	歌物語を批評し、ものの見方、感じ方、考え方を深める 『伊勢物語』「筒井筒」「梓弓」

6 単元設定の理由

(1) 生徒観

入学当初に実施した国語の学習に対する意識調査において、「どのような時に国語が嫌いだと感じるか」という質問に対し、三分の一の生徒が「古典を学習している時」と回答した。また、「疑問に思うこと」については、「古典を学ぶ意義」という回答が多く見られた。「どのような時に国語が好きだと感じるか」については、「小説のストーリーを追ったり、心情などを読み解いたりする時」「他の人の意見を知った時」といった意見が最も多かった。以上のことから、登場人物の心情や物語の展開に焦点を当てた、協働的な学習が効果的だと考えられる。

(2) 教材観

本教材は歌物語を代表する叙情性の濃い作品である。和歌に込められた詠み手の心情を中心に物語を読み解くことで、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解が深まると考える。第二十三段「筒井筒」、第二十四段「梓弓」では、男女の愛情をテーマとしつつも異なる結末が描かれており、この二つを比べ読みして意見交換をすることで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深められると期待する。

(3) 指導観

本単元では、古文に対する興味・関心を高めるために、物語文を題材とした。文語の決まりや古典特有の表現を理解するために口語訳を行うが、その際は逐語訳をせず、重要な事項を絞るとともに、生徒同士が対話をしながら協働で取り組めるよう留意する。口語訳の後、批評へつながるよう作品について疑問点や気になる点などを挙げさせる。挙がった意見を「問い合わせ」として全体で共有し、自分なりの「答え」を考えさせる。そして、比べ読みや討論へ発展させることにより、我が国の言語文化について自分の意見をもてるよう導きたい。

7 単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。
[知識及び技能] (2) ウ
- (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] B(1) オ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

8 本単元における言語活動

歌物語の内容や構成について、比べ読みし批評する。

[思考力、判断力、表現力等] B(2) イ

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ((2)ウ)	①「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつている。 (B(1)オ)	①今までの学習を生かし、作品の内容について粘り強く解釈を深めるとともに、批評を行い他の学習者と積極的に討論しようとしている。

10 指導と評価の計画（全7時間）

次	学習活動	評価規準・評価方法
第1次 (3時間)	・「箇井箇」を三段落に分け、和歌を中心に内容を理解する。	[知識・技能] ① 「記述の確認」
第2次 (1時間)	・「箇井箇」について疑問点や気になった点を挙げ、全体で共有する。 ・共有した意見を「問い合わせ」とし、自分なりの「答え」を考え、作品に対する理解を深める。	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」
第3次 (3時間)	・「梓弓」の内容を、和歌を中心に理解し、疑問点や気になった点を挙げる。 ・前時に挙がった「問い合わせ」に対して、自分なりの「答え」を考え、作品を批評する。 ・作品の批評をグループや全体で共有する。(本時2/3)	[主体的に学習に取り組む態度] ① 「行動の観察」 [思考・判断・表現] ① 「記述の分析」

11 本時の目標

協働的に「梓弓」と「箇井箇」の比べ読みをすることで、登場人物の人柄や作品にあらわれた価値観を読み取り、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
導入 5分	・前時の学習内容を振り返る。 ・本時の目標を確認する。	・「梓弓」の登場人物やあらすじを振り返らせる。		
展開 40分	・提示された「梓弓」への問い合わせについて、自分の考えをワークシートに記入する。 ・自分の考えをグループで共有し、意見をまとめること。 ・グループの意見を全体で共有する。	・「問い合わせ」について考える際、できるだけ根拠をもつよう指示する。 ・共有が進まないグループには、ワークシートを交換する等の指示を適宜行う。 ・本文から飛躍した意見があれば、根拠を説明させる。		
	・タブレット端末を使用し、「梓弓」と「箇井箇」を比べて気づいたことや感じたことをまとめること。	・まとめる際に参考となる観点やキーワードを提示する。	「思考・判断・表現」 ① ・登場人物の人柄や作品に現れた価値観等に触れ、共通点や相違点を示して比較できているかを分析する。	「記述の分析」 ワークシート (google ドキュメント)
まとめ 5分	・本時のまとめと次時の予告を行う。	・本時の学習内容を振り返り、次時の見通しをもたせる。		

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・登場人物の人柄や作品に現れた価値観等に触れ、共通点や相違点を明確にして比較できている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・個人での作業を観察し、記述する内容が浮かばない生徒には、以前の単元で比べ読みをした際に使用したワークシートを参照させ、どのような観点から比較をすればよいかを示す。